

備北圏域の診療所に係るアンケート調査について

令和5年3月16日

備北地域医療構想調整会議

1 趣旨

県では、現在、広島県地域医療構想（平成28年3月策定）を踏まえ、令和7年を見据え、病床の機能の分化及び連携による、質の高い医療提供体制の整備、在宅医療の充実をはじめとした地域包括ケアシステムの確立、医療・福祉・介護人材の確保に関する施策等を進めている。

当圏域は、広域で人口密度が低く、山間部が多い地理的条件の中で、無医地区が多く、医療提供体制の確保が課題となっている。

また、国においては、令和7年以降の新しい地域医療構想の策定の議論が開始されており、かかりつけ医機能や在宅医療等を同構想の対象に取り込んでいくことが議論されている。

当圏域で、かかりつけ医機能や在宅医療等を担っている診療所の将来見込等を把握し、今後、医療提供体制を確保するための基礎資料とするために調査を行った。

2 調査の方法

郵送による調査票の送付と回収

3 調査の実施期間

令和5年2月22日から令和5年3月8日まで

4 調査の対象者

三次市及び庄原市に所在する診療所の開設者

（ただし、高齢者・障害者の施設内の診療所及び公立の診療所は除いた。）

5 対象となる診療所数

区分	診療所数（合計に占める割合）
三次市	37（64.9%）
庄原市	20（35.1%）
合計	57

6 回答率

87.7%（50/57）

7 調査の結果

別紙のとおり

【問1】 貴診療所の所在地はどこですか。該当する番号に○を記してください。

- 1 三次市 2 庄原市

【回答】

(単位：施設)

区分	回答数
三次市	32 (64.0%)
庄原市	18 (36.0%)
合計	50

※ () 内は、合計に対する所在地の割合。

【問2-1】 貴診療所の将来の見込について、令和5年2月1日現在において最も近い番号1つに○を記してください。

- 1 特に問題がない限り、今後も診療所を運営する予定
- 2 今後5年程度は診療所を運営する予定
- 3 今後10年程度は診療所を運営する予定
- 4 可能な限り診療所の運営を続けるが、いろいろ問題があり、いつ廃院になるかわからない
- 5 その他（下記に簡潔に記してください）

()

【回答】

(単位：施設)

区分 \ 選択肢	選択肢					合計
	1	2	3	4	5	
三次市	17 (53.1%)	2 (6.3%)	4 (12.5%)	9 (28.1%)	0	32
庄原市	6 (33.3%)	6 (33.3%)	2 (11.1%)	4 (22.2%)	0	18
合計	23 (46.0%)	8 (16.0%)	6 (12.0%)	13 (26.0%)	0	50

※ () 内は選択数の合計に対する割合。

◎回答概要

- ・「特に問題がない限り、今後も診療所を運営する予定」を選択した診療所が、圏域全体で46.0%となっている。庄原市では、33.3%である。
- ・「可能な限り診療所の運営を続けるが、いろいろ問題があり、いつ廃院になるかわからない」は、26.0%となっている。

【問3】 問2-1で1以外に○を記した診療所に伺います。診療所の今後の運営において懸念していることについて、次

のうち近い番号に○を記してください。(複数回答可)

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 後継者となる医師がいない | 2 医師やスタッフが高齢化し、健康上の不安がある |
| 3 患者数が減少し、採算が取れなくなっている | 4 看護師などの新規スタッフの確保が困難である |
| 5 その他(下記に簡潔に記してください) | |

【回答】

(単位：施設)

選択肢 区分	1	2	3	4	5
三次市	12 (80.0%)	11 (73.3%)	9 (60.0%)	3 (20.0%)	2 (13.3%)
庄原市	8 (66.7%)	7 (58.3%)	4 (33.3%)	6 (50.0%)	0
合計	20 (74.1%)	18 (66.7%)	13 (48.1%)	9 (33.3%)	2 (7.4%)

※ ()内は問2-1で1以外に○を記した診療所の数(三次市15、庄原市12)に対する割合。

《「5 その他」の回答》(原文のまま記載)

- ・患者さんに病院志向が強すぎると思う。(三次市)
- ・診療報酬の改定によっては維持できない、又その他の環境の問題。(三次市)

◎回答概要

- ・問2-1で「特に問題がない限り、今後も診療所を運営する予定」以外を選択した診療所のうち74.1%が「後継者となる医師がいない」ことについて、また、66.7%が「医師やスタッフが高齢化し、健康上の不安がある」ことについて、今後の運営において懸念を持っている。

【問4】 問2-1で1以外に○を記した診療所に伺います。貴診療所を継続するためには、どのような支援や方策が必要と思われますか。次のうち近い番号に○を記してください。(複数回答可)

- 1 承継してくれる医師の紹介
- 2 看護師など人材確保への支援
- 3 公的病院など、他の医療機関からの人的な支援
- 4 施設・設備等の経済的支援や税制上の支援
- 5 その他(下記に簡潔に記してください)

【回答】

(単位:施設)

選択肢 区分	1	2	3	4	5
三次市	10 (66.7%)	3 (20.0%)	2 (13.3%)	7 (46.7%)	3 (20.0%)
庄原市	4 (33.3%)	5 (41.7%)	1 (8.3%)	5 (41.7%)	2 (16.7%)
合計	14 (51.9%)	8 (29.6%)	3 (11.1%)	12 (44.4%)	5 (18.5%)

※ ()内は問2-1で1以外に○を記した診療所の数(三次市15, 庄原市12)に対する割合。

《「5 その他」の回答》(原文のまま記載)

- ・自分自身(管理者)の健康~気力・体力・視力, 足腰の強さ(三次市)
- ・人口減に伴う患者さんの減少が進んでいる。近い将来は、もっと悪くなると思う。(三次市)
- ・診療報酬と設備投資や物価の急変への対応などが見合っていない。(三次市)
- ・重複する診療科の整理や医療機関の合併支援など、競争から協調への転換が必要。(庄原市)
- ・考えていない。(庄原市)

◎回答概要

- ・問2-1で「特に問題がない限り、今後も診療所を運営する予定」以外を選択した診療所では、必要な支援や方策として、51.9%が「承継してくれる医師の紹介」を挙げており、最も多かった。また、「施設・設備等の経済的支援や税制上の支援」が44.4%であり、2番目に多くなっている。

【問5】 その他、中山間地域におけるかかりつけ医や在宅医療等に係る医療の確保について、御意見等があれば自由に記載してください。

【回答】（一部の字句修正等を除き、原文のまま記載）

① 行政による支援や対策を求める意見

- ・人口減少に伴い、ビジネスモデルとして開業医は破綻しており、行政の支援が必須。（三次市）
- ・中山間地域においては、格段の配慮が必要で、都会との大きな格差がある中で、同様の制度での運用は困難。医療特区としての法的支援が必要。（三次市）
- ・待遇面での都市部との差別化。行政の援助、補助、承継者が来やすいまちづくりなどが必要。（三次市）
- ・現在でも人口減や高齢化がどんどん進んでいる。医療機関の人材確保やIT化に伴う施設等機器の定期的なメンテナンス・入れ換えによる経済的負担などの多くの問題を抱えている。夜間や休日対応にも限界があり、かかりつけ医機能や在宅医療の充実が必要と思うが将来を考えると十分な議論や対策が必要。（庄原市）
- ・このまま放置していると間違いなく医療が崩壊してしまう。何らかの政策が必要。（庄原市）

② 病院等との連携強化を求める意見

- ・医療機関の相互の連帯。（三次市）
- ・各診療所間の連携+病院による後方支援の強化・拡充。（三次市）
- ・診療所・かかりつけ医のできることは限界があり、病院との連携を良くすることが大切。（庄原市）
- ・無医地区が多いが、往診対応が難しい。資源の有効活用が必要。総合病院をハブとして診療所が存在し、シームレスな診療が出来る環境が望ましい。（庄原市）

③ 人材の確保に関する意見

- ・医師は余ってくるので、複数医師での交代勤務など便宜を図ればいろいろ対策は可能と考える。（三次市）
- ・自治医大出身者や地域枠入学者の適切配置による確保（ただし、数年交替制で負担軽減）（三次市）

④ 診療所の厳しい現状を訴える意見

- ・既に学校医が不足。更に、ここ数年で閉院見通しの医院が多く、どう対策するのは喫緊の課題。在宅医療も可能なところが減るのでは。（三次市）
- ・スタッフの問題と後継者の問題と患者減少と経営上の問題。（三次市）
- ・24時間体制と働き方改革を共に達成するには中山間地では困難。（三次市）
- ・採算が取れない限り、医療確保は困難。（庄原市）
- ・全ての職種で人材が枯渇。居住の集約化、ICT活用を行わないとニーズに対応しきれない。（庄原市）

⑤ その他の意見

- ・40才になったら、内科・眼科・耳鼻科・歯科・泌尿器科などに一度はかかり、現状を確認する仕組みを考えたい。悪くなってから受診する人を減らすべき。(三次市)
- ・町内の巡回バスを利用される人が減っている。理由として、「①ステップが高く、バスの乗降が難しい。②バス停まで歩いて行くのが難しい。」といったことがあると思う。(三次市)

◎回答概要

- ・当圏域において、行政による支援や対策を求める意見が5件、病院等との連携強化を求める意見が4件、厳しい現状を訴える意見が5件記載されるなど、かかりつけ医・在宅医療の確保が、大きな課題となっていることが伺える。

【問6】 医療の電子化が進んでいますが、電子カルテを導入していますか。

1 導入している

2 導入していない

3 導入予定である

【回答】

(単位：施設)

選択肢 区分	1	2	3	合計
三次市	16 (50.0%)	13 (40.6%)	3 (9.4%)	32
庄原市	9 (50.0%)	9 (50.0%)	0	18
合計	25 (50.0%)	22 (44.0%)	3 (6.0%)	50

※ () 内は選択数の合計に対する割合。

◎回答概要

- ・電子カルテを「導入していない」診療所が44.0%となっている。

【調査結果に対する所見】

- 診療所は、かかりつけ医機能や在宅医療を担っており、地域包括ケアシステムの確立を目標にかかげる地域医療構想の中で大切な役割が想定されている。
- 当圏域は、中山間地域で無医地区が多く、医療提供の確保が課題となっており、これまで、医師の確保、公立診療所の開設など、取組を進めてきた。
- 今回のアンケート調査で、当圏域の診療所において、将来的に、後継者不足、スタッフの高齢化などが進み、診療所の維持・確保に懸念があることが改めて伺われる。